２週間気温予報 解説資料　2025年7月15日　気象庁

２週間気温予報（概況）

北・東・西日本の向こう２週間の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、かなり高い日が多い見込みです。農作物の管理等に注意してください。また、熱中症の危険性が高い状態が続きますので、健康管理に注意してください。

沖縄・奄美の向こう２週間の気温は、平年並か低いでしょう。

天候に関する解説のポイント

●気温の変化傾向と要因

- 北・東・西日本の向こう2週間の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、かなり高い日が多い見込み。
- 沖縄・奄美の向こう2週間の気温は、湿った空気の影響を受けるため、平年並か低い。

●大気の流れの見通し

- 実況：500hPa高度では、朝鮮半島付近にトラフ、日本のはるか東海上でリッジとなり、日本付近は西谷。地上では日本の東海上で高気圧が強く、朝鮮半島付近から日本の南にかけて低圧部となっている。850hPa気温は、東シナ海を中心に負偏差域、北日本中心に正偏差域に覆われている。
- 対流活動：実況ではインド洋東部から太平洋中部で対流活発、太平洋東部から大西洋で対流不活発。1週目の終わり頃から、対流活発域は南米に、対流不活発域はインド洋に東進する。朝鮮半島付近から日本の南にかけての対流活発域は1週目の中頃にかけて不鮮明となり、その後新たな対流活発域がフィリピン東海上から華南や日本の南へと北上する。
- 1週目：500hPa高度では、期間のはじめに亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の強まりに伴い、日本の東のリッジ、朝鮮半島付近のトラフがともに強まり、日本付近は西谷が続く。期間の中頃にかけてはリッジが西進しつつさらに強まり、本州付近は広く高気圧に覆われる。対応して、地上では日本の東海上の太平洋高気圧が次第に本州付近に張り出し、期間の中頃には北日本から西日本を覆う。一方、朝鮮半島付近から日本の南にかけての低圧部は、期間の中頃にかけて次第に不明瞭となる。また、別の低圧部が期間の中頃からフィリピン北部で明瞭となる。本州付近は南からの暖かい空気が流れ込みやすく、850hPa気温は、期間を通して北日本中心に+3℃以上の強い正偏差に覆われる。一方、沖縄・奄美では平年からの偏りは小さい。
- 2週目：500hPa高度では、亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播が弱まり、朝鮮半島付近のトラフが期間のはじめには不明瞭になるとともに、フィリピン東海上を北上する活発な対流活動の影響も加わり、日本付近のリッジが期間の中頃にかけて日本海に西進しつつ維持される。引き続き、本州付近は高気圧に覆われる。対応して、地上では太平洋高気圧が東・西日本中心に覆う状態が持続する。一方、フィリピン北部の低圧部は、次第に不明瞭となりつつも持続する。日本付近は暖かい空気に覆われやすく、850hPa気温は、期間の終わりにかけて、北日本で次第に低下するものの、北・東日本と西日本日本海側では正偏差が続く。一方、西日本太平洋側と沖縄・奄美では平年からの偏りは小さい。

●前回（7月14日）の早期天候情報検討時の見通しとの違い

見通しに大きな違いはない。

○最新の2週間気温予報は、

https://www.data.jma.go.jp/cpd/twoweek/

を参照してください。

この資料は、気象事業者等が気象庁の提供する２週間気温予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。